



発行 ● 新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務所
 住所 ● 埼玉県所沢市弥生町2996-6 山ロビル1F TEL/FAX 042-994-3212
 発行日 ● 2002年(平成14年)4月30日

VOL. 17

新河岸川流域川づくり学習会報告 特集

P1-4 新河岸川流域川づくり学習会報告

新河岸川流域情報

- P5 市民の広場-市民の活動レポート-
多摩湖の堤防強化工事に対する取組みについて
- P6-7 新河岸川流域紀行
歩く・見る・聞く(最終回)
- P8 イベントカレンダー



切絵 毛利将範

新河岸川流域川づくり学習会 特集

テーマ 川づくりにおける行政と市民の合意形成

日時 平成14年3月9日(土) 午後1時~4時

会場 朝霞市産業文化センター 2F 研修室

プログラム

1 開会挨拶

2 講演 講師: 田中 芳雄氏 (小金井市職員)
 テーマ: 「雨水浸透事業」を通じて推進する市民・水道屋さん・行政のパートナーシップ

講師: 小林 一己氏 (黒目川流域川づくり懇談会)
 テーマ: 住民参加による黒目川改修計画策定

3 パネルディスカッション

コーディネーター 佐々木 寧氏 (埼玉大学教授)
 パネリスト 舩原 邦明氏 (東京都建設局河川部計画課中小河川係長)
 篠塚 正行氏 (埼玉県新河岸川総合治水事務所所長)
 田中 芳雄氏
 小林 一己氏



新河岸川流域川づくり学習会が行われ、行政と市民の合意形成、パートナーシップについて、様々な事例に基づき、話し合われました。

今後は、河川だけを考えるのではなく、自然環境や生活環境も含めて考える必要性があります。こうした広い視点でより良い環境づくりと川づくりを考えるためには、より多くの方々と、前向きな話し合いが不可欠であると確認されました。



新河岸川流域川づくり学習会 報告

テーマ 川づくりにおける行政と市民の合意形成

新河岸川流域川づくり学習会では、市民と行政の合意形成に向け、パートナーシップが大きな役割を果たした事例をご紹介して頂きながら、話し合いが進められました。ご講演は、市民と行政が共に協力し、実現された事例です。どのような河川環境や地域環境が理想的であり、そのためには、どのような努力や話し合いが必要なのか、具体的な問題や解決の過程が紹介されました。



講師：田中 芳雄氏（小金井市都市建設部下水道課）

講演：「雨水浸透事業」を通じて推進する市民・水道屋さん・行政のパートナーシップ

講演 1

はじめに

小金井市の「雨水浸透事業」は、市民・水道屋さん・行政のパートナーシップにより築き上げられました。第3回日本水大賞など、これまでの受賞は、パートナーシップによるものが評価されたのだと思います。

小金井市の概要と事業背景

小金井市の約7割が武蔵野台地、約3割が多摩川により形成された低地で、その境には武蔵野の面影を残している緑豊かな段差（ハケ）があります。そこから湧水が流れ、昔は湧水の音で眠れないほど豊かだったそうです。

しかし、昭和30年代からの都市化により、湧水は減少し、野川は酸素不足の状態となりました。水生動植物にも打撃を与え、市民の憩いの場も奪われました。

このような状況を改善するため、湧水復活・保水を市民にご理解頂き、地域社会への貢献をお願いしながら、「雨水浸透事業」は進められました。

雨水浸透事業の目的

雨水浸透事業は、湧水を湧出させ、生物の豊かな野川にしよと始められ、同時に土壌の有する貯水機能により、河川への水の流出を遅らせる効果も期待されました。事業の目的は「緑ゆたかに快適な魅力あるまち」の実現とあわせ、グローバルな視点で都市の自然環境保全を促進することにあります。また、当事業の推進を通じて、水辺に憩いの場を創出するとともに、子供達でこれからの地球環境を考えてくれるようになることも願っていました。

雨水浸透ますについて

事業を推進する中で、市民の負担で雨水浸透施設を設置していただくためには、建物の柱一本ぐらいの費用負担で良い浸透ますができなものと考え、小金井市独自の浸透ますができました。この浸透ますは、筒に穴があります。浸透ますの周囲には土壌菌やミミズ等が集まり、酸素を供給するため穴を作ります。こうして、地面に空隙ができ、浸透効果が高く、根詰まりの心配もありません。また、浸透した水が地面をゆっくり流れて川へ注がれるため、水生生物や、生き物も増えて、自然環境を豊かにする効果もあります。

成功のキーポイント

建物の新築・増改築時には、排水設備の計画届出書を市の指定店で申請することが条例で決まっています。雨水浸透事業の成功は、市民とその指定店の方々（父ちゃん母ちゃんの水道屋さん）の双方の理解と協力が不可欠でした。施工にあたって、指定店への説明会を開催し、これまで、水を漏らさないように排水施設を整備していたものを、雨水が漏るような浸透施設にするという改定の理解と協力を求めました。最初は業者の方々も困惑されました。しかし、少年時代に川で魚とりをしたことや、野川で泳いだ話が出てきました。そのやり取りを聞いた元会長が「やるべー、いいことだから」と発し、その言葉により指定店にもご理解とご協力が得られ、事業は始まりました。

事業の現在と効果

現在、市内全体の39.9%（9033軒）の建物に、41749個の雨水浸透ますが設置されています。一軒一軒は小さなマスでも、これだけ集まると大規模貯留池よりも効果があるといえます。

課題点

課題点として、以下が挙げられます。

①雨水浸透事業は万能ではなく、多様な緑の効用、保水力こそ万能といえます。雨水浸透ますは、緑を補うものでしかありません。②雨水浸透ますを地下汚染につなげないことを極力考慮する必要があります。③浸透不適格地域では、雨水を貯留し、飲み水等に利用する方式も有効ですが、降った雨を昆虫や緑にあげられる点では雨水浸透が適しているといえます。

事業のこれから

小金井市の雨水浸透事業は、活動等を通じて市民を啓発し、21世紀に向けて野川を清流として復活させる、自然環境再生・創造に向けた取り組みの一環です。また、自然を守ることで、河川の氾濫を防ぐ都市計画事業を市民がつくったとも言え、誇れることです。小金井市民は、「自然を守る心」を行動で示しています。これから更に、地域社会に貢献していく市民のあり方について市民的議論から国民的議論へと創造を高めていきたいと思います。

新河岸川流域の紹介とテーマについて

新河岸川流域は、昭和40年代から急激な都市化が進み、頻りに浸水被害に見舞われました。そのため、河川だけでなく流域全体で治水を考える河川として指定されました。流域で治水を考える場合には、行政だけではなく、市民の方々と連携しなくてはなりません。

また、河川の改修事業も、平成9年に河川法が改正され、工事計画をたてる際に、地域の方々の意見を聞くように定められました。流域での治水を考える上でも、あるいは川の工事を考える上でも行政と市民の合意形成というのが昨今非常に重要になっています。



講師：小林 一己氏（黒目川流域川づくり懇談会）

講演：住民参加による黒目川改修計画策定

講演 2

はじめに

黒目川の改修工事は、埼玉県新河岸川総合治水事務所によって、下流の新河岸川合流部付近から遡るように行われてきました。その途中、東武東上線の橋梁付近まで工事が完了した段階で、それまでの堤防を高くする工事から、堤防を高くしない工事へ転換されることになりました。

この転換は、単に技術的な側面だけではなく、住民参加の川づくりに向けての転換でもありました。その点についてお話をします。

黒目川改修計画策定委員会

委員会は、2000年の3月から翌年の3月まで開催されました。市民団体では、それ以前の1999年夏から、旧建設者土木研究所河川環境室長の島谷幸宏氏を招いて、勉強会を重ね、その結果①堤防を高くする工事に危険が伴うこと、②市民も多自然型川づくりについて、更に勉強する必要があることが見えてきました。

こうした経緯を受けて翌年の3月に、県の関係者3名、朝霞市行政関係者4名、同学校関係者3名、朝霞市議会議員が3名、町内会長7名、市民団体3名、学識者2名、合計25人のメンバーで構成された委員会が開催されました。最初の会議で、委員会を6回で終わりにするという案が出されましたが、市民からの要望により、回数を限定するのではなく、6段階で進めていくことに変更されました。

工事計画について

工事計画は、最初に出されていた堤防を高くし、河川の中心部を開削する案は取り止められ、兩岸の堤防間を全て掘り、川底全体を低くするように転換されました。しかし、蛇行して流れている川をまっすぐに掘り直す計画だったため、現状の川を活かし、蛇行したまま削って掘り下げることを提案し、変更されました。

こうした変更は、改正河川法における川づくりに住民参加をすすめる趣旨を反映したものであり、また河川環境に配慮した蛇行した現況河川を活かすという点で、新しい提案と試みがあったといえます。

堤防の高さをめぐる問題

委員会を重ね、解決すべき問題を話し合いながら、委員会の必要性や意味が見えてきたように思います。

例えば、このようなものです。東武東上線の鉄橋が黒目川に直角に通っています。これより下流の工事の完区間は、基本的に堤防を高くするという工事でしたが、計画を進めている上流部分は、堤防を高くせず、河床を掘り下げるということになりました。そのため、工事の完了区間と、これから工事を行う区間の間（掘り付け部分）で段差ができます。それをどう解消するかという問題が出たのです。

まず、両区間の掘り付け部分を、斜に緩やかなスロープでつなぐことが県から提案されましたが、この区間は現状よりも高い堤防になります。洪水の水量を毎秒120m³とし、その水が流れた時の水面の高さと、堤防の高さとの差80cm以上の余裕高をとることが河川工事の指導としてあります。現状の堤防でも、余裕高が確保されているにも関わらず、更に堤防を高くすることに市民として反対と、代案を求めました。

問題となった河川の外側(平地)には、東武東上線の線路部分の壁と、新しく盛られた堤防により三角形の地帯が生じます。予想以上の大水が出て、水が堤防を越えた場合、溢れた水は、壁と堤防に遮られ、その三角形に溜まり、被害を拡大させる危険があります。堤防が低ければ、水は河川に戻りやすい状況となります。よって、この部分の堤防を高くすることは好ましくないことが委員長の島谷さんからの指摘で明かとなり、最終的に堤防は低くすることになりました。

本当のパートナーをめざして

パートナーシップを築くために、行政は、市民により多くの情報公開をし、市民と一緒に考えられる環境にすることが必要です。また、市民も技術的な問題も含めて、自分たちで解決策を探るような勉強が必要で、単なる要望ではなく、裏づけのある提案ができてこそ、本当のパートナーになれるのではないのでしょうか。そのために、お互いにこれまでの弱点を勉強する必要があると思います。

パネルディスカッション

コーディネーター パネリスト

佐々木 幸氏 舩原 邦明氏 篠塚 正行氏 田中 芳雄氏 小林 一己氏

討議視点の説明 佐々木 幸氏 (埼玉大学建築工学科教授)

現在、治水については、流域全体で環境も含めて考えることが求められています。かつて洪水は、自然がもたらす天災でしたが、現在は雨水管や下水管から水が溢れることもあり、生活スタイルに結びついた人災となっています。そのため、いかに都市の水を管理するかが、治水を考える上で重要となっています。前半のご講演から、治水と利水の両側面を考えた上で、より豊かな自然をつくるための、具体的な事例がご報告されました。また、そのためには、市民の言葉も重要なことが分かります。これから後半は、行政の事例報告と共に、会場から様々な意見を頂き、議論を深めていきます。

東京都における事例報告

舩原 邦明氏 (東京都建設局河川部計画課中小河川係長)

東京都では、地域に親しめる川づくりをめざし、市民と行政が河川に関わる情報や意見の交換を行うために流域連絡会を9つの河川で設置しています。その一つに「柳瀬川・空堀川流域連絡会」があります。

また、柳瀬川の平成12年度の工事において、11回の意見交換会を開催しました。意見交換会の論点は、主に金山調節池の斜面林沿いに管理用道路兼歩道道の設置に関する意見と、カワセミの営巣があるため管理用道路を設置しないでほしいという意見の相違でした。工事は、カワセミの営巣を考慮しながら管理用道路をしましたが、今後も継続してモニタリング調査を行う予定です。

会場とのディスカッション (討議の一部を紹介します)

【講演について】

- 市民負担で設置するにも関わらず、市民が積極的に協力をする切掛けとなるような働きかけがあったのですか？ (田中氏) 雨水を汚水と一緒に流してしまうのではなく、柱一本分のご負担で、昆虫や生物に水をあげて下さいと説明し、ご理解とご協力を頂きました。
- 強制ではなくお願いだけで、市民が積極的に参加できていたのは、どうしてですか？ (田中氏) 下水道の整備指定店の方が、利益だけではなく、市民の立場に立って、自分たちのまちづくりや環境の大切さ理解し、協力を呼びかけてくれたおかげです。
- 雨水浸透施設の川への影響等に関する調査は行われていますか？ (田中氏) 現在マンション建設が進んでいるため、急激に結果として現れませんが、徐々に湧水は増えています。また、具体的な水量等の調査は、東京都と民間団体が行っています。市としては行っていません。



埼玉県における事例報告

篠塚 正行氏 (埼玉県新河川部総合治水事務所所長)

黒目川の改修工事は、治水安全性の向上を図り、自然豊かで親しみやすい河川を創出するために進めています。小林氏のご講演のように、委員会で様々な立場のご意見が生まれ、より良い計画が実現しました。特に、河川と環境に配慮したアドバイスにより、法的な裏付けに基づいた整備が可能となりました。整備としては、桜並木の保全の他、河床に堆積した土砂を除去し、極管からの内水の排除もスムーズにしました。

当事務所としては、住民の方々と一緒に考えてゆくために、立場の違う市民のご意見を、管理上どのようにまとめていくかが今後の課題でもあります。

【東京都と埼玉県の事例紹介について】

- 計画を変更する場合、工事費用が高くなりませんか？ (篠塚氏) 今回の場合は、橋の架け替えがなくなったため、増額はありません。堤防を高くするために用意された河川用地は、環境に配慮した堤防を実現するため利用しました。
- 河川の草刈り等、河川管理上の市民の意見の相違がある場合、市民も含めた話し合いの場はありましたか？ (篠塚氏) 合意が得られない場合を配慮して、相違するご意見の方々に直接お集りしてもらうことは行っていません。当事務所がそれぞれのご意見を尊重しながら解決策を考え、調整をしています。
- 工事について市民に意見を求める段階で、既に計画は固まっているのではないですか？ (舩原氏) 都市計画決定の段階で、まず住民の方々に説明をし、意見を伺います。その後、用地買収に関する話し合いや予算の確保等を確保を行います。話し合いと平行して決めていくこともあります。
- 柳瀬川の改修工事後、相違意見の市民両者に、完了した河川の満足度を聞きましましたか？ (舩原氏) 今後の工事に反映できるよう、そうしたことも行いたいと思います。

【コーディネーターによるまとめ】

これまで河川は、機能的な面が重視されてきました。これからは、まちづくり、川づくりを重視し、河川を市民の共有財産として捉え、その利用をみんなで考えていく余地が十分あり、大きな可能性も望めます。



市民の広場 - 市民の活動レポート -

多摩湖の堤防強化工事に対する取組みについて

柳瀬川流域川づくり市民懇談会 宮本善和

新河川流域は、上空から見ると、扇(おうぎ)を広げたような形をしている。その扇の要(かなめ)にある位置には、広大な緑を誇る狭山丘陵が広がり、流域の多くの川の水源地となっている。この狭山丘陵の中央に立地する多摩湖・狭山湖(水道用の貯水池)で、現在、ダム堤防の耐震補強事業が進められている。狭山湖(山口貯水池)では実際に今、ダム堤防が東京都水道局によって大規模な工事を受けている。

これは、阪神淡路大震災を教訓にした耐震工事ということで、今までの堤防の両側を上で厚くしてより安全な堤防にしようという内容である。この狭山湖の工事に関し、湖に生息する水鳥等の生物に大きな影響が生じることが懸念された。このため、周辺の市民団体が都水道局に働きかけをして、湖の水面を残したまま工事を行うという環境配慮が行われているところである。そして、平成14年度秋からは多摩湖(村山貯水池)で同様の工事が予定されている。

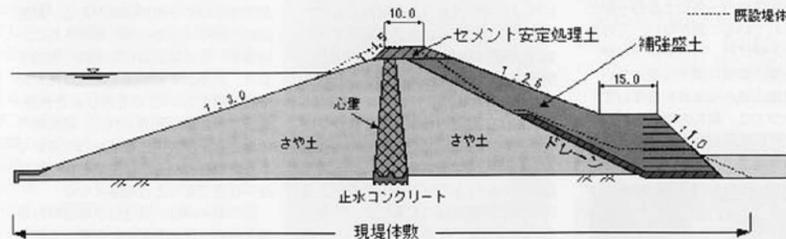
多摩湖でも狭山湖と同様に、湖周辺や下流河川に生息・生育する野生生物に関する影響が危惧される。また、多摩湖の場合には、堤防の直下に多くの

人で賑わう都立狭山公園があり、狭山湖の工事のように堤防を厚くする工法では、公園の半分程度が失われてしまう可能性があった。このような問題を重くみた周辺の市民団体11団体は、「多摩湖ネットワーク」という連携を組み、各団体が有する地域の環境に関する情報を集め、都水道局に対して様々な問題点の指摘を行ったり、対話、意見書の提出などの働きかけを行ってき、当懇談会も、この柳瀬川流域の水源地の問題に取り組むため、同ネットワークに積極的に関わってきた。

そして、先頃、狭山湖の工法とは大幅に異なる工法が多摩湖に採用されることが事実上決定された。即ち、狭山湖のように上流(湖水側)及び下流の両側に厚く土を盛り、堤防幅を広げるのではなく、現在の堤防の敷地の中で、下流法面のみを補強盛土(強固な土)で強化しようとするものである。この工法により、狭山公園は部分的にも失われることはなくなり、湖周辺にも工事が及ぶことなく、湖周辺の生物の生息・生育に大きな支障となるような事態は回避された。様々な市民団体の日頃の環境保全活動があってこそその成果である。

しかし、工法の細部や、約6年にも及ぶ工事期間中の諸影響については、まだまだ未解決であり今後継続して対話していくべき課題である。柳瀬川流域川づくり市民懇談会では、この柳瀬川流域の水源地の問題に取り組むため、今後も多摩湖ネットワークの活動に参画し対話を続けていく予定である。

一方、そもそもこの工事の必要性についても疑問があることも追記しておきたい。都水道局の解析によれば、今後想定される巨大地震時においても、現在の堤防は壊れることなく安全であるというのである。ならば、なぜ工事をするのかという点について、都の説明では「万全には万全を期したい」という旨の答弁にとどまっている。確かに安全性の向上は重要である。しかし、安全性というものは、追求すれば際限がない。また、このような大規模なダムの耐震工事は、世界的にも例がないということである。多摩湖・狭山湖の工事を「先駆的な事例」と解釈するのは、「行き過ぎ」、「無駄使い」とみるのかについては議論が不十分なままとなった。これからの公共事業のあり方について、大いに考えさせられる問題である。



◆決定された多摩湖の堤防強化工法◆

出典：東京都水道局ホームページ <http://www.waterworks.metro.tokyo.jp/press/press219.htm>

新河川流域紀行 文 松本富雄 歩く見る聞く シリーズ第5回(最終回) 柳瀬川の源流をたずねて

はじめに

新河川水系の支流で、最大規模の河川が柳瀬川である。柳瀬川の水源は、上流で分け別するもの、すべて狭山丘陵から発する。今回は、柳瀬川の主流・支流の水源を訪ねてみた。柳瀬川には、東川・空堀川・北川などの支流がある。東川は、柳瀬川と新河川合流点から約8km上流左岸で合流する。東川は狭山丘陵の北麓に源をもち、所沢市内を通り抜けて合流する。柳瀬川を

この合流点から約4km上流に上ると、右岸すなわち東京都清瀬市側から空堀川が合流する。空堀川は狭山丘陵の南麓から流れ出て、武蔵村山市、東大和市、東村山市、清瀬市と抜けてくる。空堀川との合流点から、さらに上流約5kmの県境の二瀬橋付近で北川を合流する。北川は二瀬橋から僅か500m上流で前川を合流する。北川は多摩湖に、前川は狭山丘陵の南麓に水源を持つ。(図1:柳瀬川流域図)

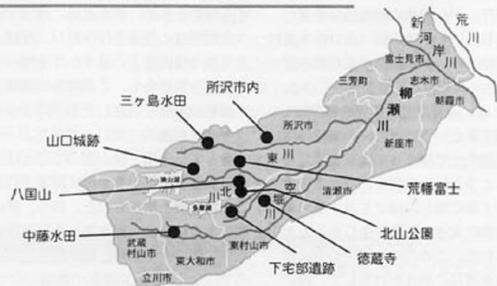
柳瀬川本流 二瀬橋から狭山湖へ

柳瀬川本流は、かつては二瀬橋から上流に広い水田を形成していた。しかし、現在は住宅化されている。僅かに生産緑地の標識がたれ、埋め立てられ田が畑に変わった姿を所沢に見るに過ぎない。南側に古代悲田処の言い伝えや、新田氏の鎌倉攻めの伝承をもつ八国山と呼ばれる狭山丘陵の先端部と北に名勝荒幡富士の枝丘の間も住宅化し、住宅地の中を三面護岸の排水溝のような柳瀬川が上流に向かう。これらの歴史について、通りがかる人に訪ねても誰からも答えは返ってこなかった。大半が移り住んだ人々で、地域の歴史には関心がない。もっとも、かつての景観が極端に失われているために、歴史や自然や川のことに対して、関心を持つというのは無理なことかも知れない。所沢市山口付近の西武狭線山線下山口駅から上流へ約500メートルに山口城跡がある。椿峰の丘陵を背に、柳瀬川に面して城があった。中世、村山完という武士集団の城とされるが、信号館の大型店舗の一角に土塁の一部と池が残されているに過ぎない。この池は児子池と呼ばれ、湧水があったが、椿峰の丘陵の開発以降は湧かない。柳瀬川は狭山湖から水源を確保しているがかつては、現在の湖底を約2キロ上った所に水源があったとされる。水源碑は大鐘橋の袂にさびしくある。



柳瀬川水源碑 水源は水の旅の始まるところ。もう少し大車にしたいと思いた。

【図1】 柳瀬川流域図 水源付近の水に関するポイント



北川と前川 市民と共にある河川

北川は二瀬橋からほどなく前川と合流する。この合流点付近は久米川古戦場と呼ばれ、合流点の右岸の徳蔵寺には戦死した武士供養のための元弘三年(1333年)銘板石塔婆(国指定文化財)がある。鎌倉街道が通り、上州(群馬)から攻め上った新田義貞軍、幕府軍が迎え戦った古戦場である。丘陵といくつか河川が合流する複雑な地形が合戦の場所利用された。幕府軍は大敗、新田軍は鎌倉街道を上り、やがて倒幕する。そんな歴史を動かした舞台となった地である。

北川は二瀬橋から水源まで僅か3kmの小河川である。北川は宅部川・後川ともいう。住宅密集地を通る排水路と認識されかねない小河川であるが、この地域は市民活動の成果によって参加型の親水事業や整備がされている。都立北山公園は狭山丘陵保全のための公園であるが、その一角に北川の環境を復元した親水公園も作られた。市民の積極的な声か、こうした公園づくりにも大きな力になっている。また、周辺

には僅かであるが、水田を見ることが出来る。水田の所有者の話は、少しでも長く昔の面影を残したいという。25年くらい前この付近を歩いたことがあるが、丘陵の緑を背景にほとんどが水田であったことを思い出した。

武蔵村山市と東大和市の境付近の北川水源まで1km足らずの東村山市多摩湖町の右岸に下宅部遺跡がある。都営団地の建設工事の際に発見された。特筆すべきは縄文時代の遺跡の発掘である。約4000年前の縄文時代に丸太材や石で堰をつくり、魚をおびき寄せ漁をしていた跡が発見された。縄文時代の漁の様子が発見された遺跡である。現在よりも川は生活と切り離せない存在であったと理解させる。

北川の水源地は、現在は多摩湖畔の堰堤下の都立狭山公園内にある。多摩湖設置以前には、さらに上流約3kmのたつちゃん池が水源だったと聞いた。現在公園内に、宅部池(通称たつちゃん池)があり、池のオーバーフローした水が多摩湖からの引水が北川の水源地になっ



十二段 かつては、この十二段を滝のように多摩湖の水を落とし、北川の水源地としていた。

ている。昭和30年代までは、多摩湖の堰堤から十二段と呼ばれる滝があり、その滝の水が宅部池を満し、北川に注いでいたと鮎つりをする老人が、当時の少年時代の思い出と共に語ってくれた。今は水を落としていない十二段を見ながら「夏になると、子供たちはこの滝をプール代わりにだっし、この滝から宅部池に水が流れるから宅部池は冷たかった。そのため、タナゴが多く、池には黒く群れなしていた。今でもタナゴが卵を産みつけるカラス貝は池にいるから、水が入ればタナゴも戻らる」と語り、こんな冬に未だに春に来い。桜と若葉の季節が丘陵の一番いい季節だと…加えた。

前川は二瀬橋の上流で北川に合流するが、やはり、三面護岸で東村山市の住宅地の中を通り抜け、西武多摩湖線の武蔵大和駅の近くで、丘陵の谷間に入り込んでいく。しかし、この谷間に入り込んでいく住宅が密集し、川らしさを見せてくれなかった。両脇の丘陵の林は自然公園として整備されているのに、前川は三面護岸の排水路、しかも東大和市湖畔2丁目付近からは暗渠になってしまふ。暗渠の先には公園の中作られた池がある。作られた池でも暗渠よりよい。水源はこの池に流れ込む小さな水路の上にある。規模こそ小さいが二つ並んで湧水がある。この湧水は整備されてなく、自然に産のロームから湧き出ている。前川の水源地は昔ながらに残されていた。ようやくとどき着いた真正正路の水源地であった。雨上がりであたためかもしないが、近くの産からは染み出すように土がぬれていた。カメラに収めようと湧水にレンズを向けた瞬間である。木の枝からぼたぼたと水が湧き落ちた。ふと、きれいなまま海まで流れて欲しいと願った。

空堀川と奈良橋川 水田の面影は

清瀬市で合流する空堀川は、清瀬の合流点から約18km遡った武蔵村山市の都立野山北公園の谷奥に水源があるが、この公園の手前は住宅が密集し暗渠になっていた。水源には、現在、釣りができる池がある。釣りしていた子供たちに、「この池の水はこの川に流れるの」と尋ねると、首を傾げるばかりで答えはなかった。

奈良橋川は東大和市の高木橋付近で空堀川と合流する全長約5kmの河川である。上流の武蔵大和市に入ると名前を変え谷戸川と呼ばれる。谷戸という名前の通り狭山丘陵の谷間を流れる。水源は同市本藤2丁目の竜太池にある。この谷戸川付近には明治時代の迅速園(明治10年代に陸軍作成)を見るところの谷戸川一帯に水田が広がっていた。現在は、水田を見ることができないと思いついたのだが、青梅街道にそった本藤4丁目約2反の水田があった。川の水は汚れ利用されていなかった。



前川の水源地 前川の源は、こんな小さな湧水から始まる。



空堀川の水源地 つり池から空堀川は流れているが、しばらくは暗渠となる。



谷戸川に沿って残る中藤の水田

東川 市内を抜けて

所沢市は、現在の元町付近を中心に江戸時代は発展した街で、元町を流れる東川以来大車な生活水であった。東川は所沢市の生みの川といえる。しかし、現在の街は、岸線に桜が植えられ遊歩道が設けられているものの、大雨の際に浸水する危険性のある川、排水路としての役割程度にしか扱われていない。親水とは、川や水の恵みや役割に感謝するところから始まるものである。所沢市の元町付近の再開発と保存活用という動きが近年盛んに議論されているが、街の生みの川も大切に議論の対象に加えて欲しいと願う次第である。東川は、柳瀬川への合流地点から水源までは約16kmあり、水源は所沢市三ヶ島地区の狭山丘陵北麓にある。三ヶ島地区に入ると、川は小川のせせらぎを思わせる。三ヶ島八幡神社の北側に、川に堰跡を見つけた。周辺は開発が激しいが、明治10年代の陸軍迅速園によれば、付近には水田が広がっていた。近くの農家に尋ねると、昭和30年代まではこの堰から水田に水を引いていたという。三ヶ島のほとんどの農家が水田を1(1000m)、2反もち、年間の食べ量の米は賸り、東川を中心に12町歩(120.00m)の水田があったという。「もう、水田はないですよ」と尋ねると、「あるよ。その奥に」と指さされ、住宅の影をみると、1反くらいの水田がある。東川最後の現在水田である。

水源は埼玉県立芸術高校の南側の谷頭にある。農家の畑の奥にあったが、マンホールの蓋が覆っていた。中には今でもきれいな水が湧いているという。

水源の水を覗きたかったが、今回は諦めた。開発されていけず安心してある。いつか、水大事をきっかけ仲間と訪ねたいと思った。



東川の水田と東川 わずかながらも、東川が暮らしに役立った時代が感じられた。

Information

イベントカレンダー

イベントに関するお問い合わせは
新河岸川流域 新所沢事務所 TEL/FAX 042-994-3212
変更も考えられますので、事前にお問い合わせ下さい。

志木市周辺 イベント情報

ハタザクラまつり

今年はどう散っているかな? でも世界に
1本しかない珍しい花弁、一見の価値有り。
日 時: 4月14日(日) 午前11~3時
集 合: 長勝院跡(志木三小となり)
主 催: 環境教育推進員の集い
問合せ: 048-473-1111(志木市生涯学習課)

春の野草観察会

日 時: 4月21日(日) 午前9時~11時20分頃終了
集 合: 午前9時に柳瀬川サミット前(雨天中止)
主 催: 県生態系保護協会志木支部/エコシティ志木
/教育サービスセンター
問合せ: 048-474-2559(武藤)

尾崎農機具資料館の定例整理

昔のくらしや農業の話が聞けます
日 時: 5月10日(金) 午前10~12時
集 合: 資料館裏門集合
主 催: エコシティ志木
問合せ: 048-476-1955(福村)

ツバメと春の観察会

日 時: 5月25日(土)
集 合: 午前9時 東武東上線「柳瀬川」駅
サミット前広場(雨天中止)
持ち物: 筆記用具、双眼鏡(持っている人)等
主 催: エコシティ志木/生態系保護協会志木支部
/志木市立教育サービスセンター
問合せ: 048-471-4275(毛利)

柳瀬川流域水循環マスタープラン 中間とりまとめ 公表

- 近年、急激な都市化により「水」の流れる経路・水量・水質が変わってきています。この結果、洪水が増える一方で、普段の川の水が少なくなったり、汚くなったりといういろいろな問題が出てきています。
- このような問題の解決策を流域全体で考え、流域の水循環を望ましい姿にするために総合的なマスタープランの策定を進めています。
- 柳瀬川流域水循環マスタープラン中間とりまとめは以下の特徴があります。
 - ・水循環という視点で、河川の改修、雨水の貯留・浸透、地下水、湧水、緑地保全、市民参加、地域づくり等に関し、これまでの行政部門を超えた取り組みの方向性を示しております。
 - ・柳瀬川の流域は、東京都・埼玉県の2都県、13市町からなり、このような規模での水循環に関する計画のとりまとめは全国で初めてであります。
 - ・一般公募した市民からなる「市民懇談会」で討議を重ね、ホームページを活用するなど、プラン策定段階から情報を公開して市民の意見を聴き、繰り返し資料の修正等を行い、「中間とりまとめ」に反映するよう努めてきております。

中間とりまとめの公開は、柳瀬川流域水循環マスタープランのホームページでも公開しています。

<http://www.ara.or.jp/arage/yanase>

新河岸川流域フォーラム 開催決定

新河岸川流域フォーラムを開催致します。テーマは「あなたの家は大丈夫! 先人に学ぶ 川との付き合い方」です。水害と戦いながら、その水を上向き利用した先人の知恵に学び、川との付き合い方を一緒に考えてみませんか。詳しくは、開催事務局へお問合せ下さい。

日時: 2002年5月19日(日) 午前10時~午後4時 会場: 東洋大学 朝霞校舎3号館

開催事務局: 荒川下流工事事務所 調査課 TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346

<http://www5.ocn.ne.jp/~singasi/index.html>

新所沢事務所

里川しんぶんについてや、活動についてのお問合せは、新所沢事務所まで、お気軽にどうぞ。

開館時間

月・水・金曜日	午後1時~午後5時
土・日曜日・祝日	午前10時~午後5時
火・木曜日	休館

会議等でご利用になる場合は、開館時間の変更も可能です。ご利用の方は新所沢事務所までご連絡下さい。

「里川しんぶん」掲載情報を大募集します!

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙、FAXまたはEメールで新所沢事務所までお寄せ下さい。

〒359-0043 所沢市弥生町2996-6 1F
新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務所
TEL/FAX 042-994-3212
E-mail singasi@vesta.ocn.ne.jp

